



# [pasjō]

[pasjō]=passion

Creator

**宇野亞喜良 Akira Uno**

イラストレーター、アートディレクター

1934年名古屋市生まれ。

名古屋市立工芸高校図案科卒業。日本デザインセンターを経てフリーに。以来イラストレーターとして幅広く活動し、展覧会への出品や展覧などを多数開催。舞台美術も手がける。

2017年アーティストグッズブランドQXQXを立ち上げる。

日宣美特選、日宣美会員賞、講談社出版文化賞さしえ賞、赤い鳥挿絵賞、日本絵本賞、全広連日本宣伝賞山名賞、読売演劇大賞選考委員特別賞など受賞多数。1999年紫綬褒章、2010年旭日小綬章受章。

Printing Director

尾河由樹 Yuki Ogawa 小林武司 Takeshi Kobayashi

Photographer

斎藤美帆 Miho Saito 佐野裕哉 Yuya Sano

## 思いを翻訳するように描きつつ

子供の頃から印刷物が好きでした。家が喫茶店を営んでいて文芸雑誌や新聞がたくさんあったし、自分や妹の少年・少女雑誌もあって、いつもそれを見ていたんです。いちばん好きだったのは新聞の連載小説の挿絵、なかでも木村荘八の『花の生涯』(作:舟橋聖一)が特に気に入っていました。油彩の作品も展覧会で拝見しましたが、やはり僕には挿絵のほうが魅力的に思えました。

## そこが現在の起点になった?

そうですね。漠然とですが、印刷で絵が復元されることが面白いと感じて、それで今の仕事を選ぶことになったのだと思います。

仕事を始めたのは1950年代の後半です。まだ日本ではイラストレーションという言葉がなかった頃で、僕が目指したのは河野鷹志さんや山名文夫さんのようにイラストレーターの要素が強いデザイナーでした。

というのも、僕は人から頂いたテーマを、どう自分流に描くかが面白かったからです。画家のように自分のテーマで描くより、お題が決められているなかで落語を一席つくるような、ビジュアル翻訳業という感じが好きでした。



それは今でも同じです。ですから今回も話を伺って、すぐに「面白そうだな」と思ったんです。

## 「PASSION」から「あのこ」へ

「PASSION」と聞いて最初に浮かんだのは、ちょっと古典的なアメリカ映画『The Pride and the Passion(邦題:誇りと情熱)』でした。それで「PASSION(情熱)」を恋愛の心理の一つのようなものとして捉え、そのイメージで作品をつくることにしました。

ではどうやってつくりか考えていた時のことです。偶然にも長いこと預けっぱなしになっていた、60年代に描いた絵本を元にした展覧会の作品が戻ってきたのです。

## その絵本とは?

今江祥智さんの『あのこ』という作品です。戦争中に都会の女の子が疎開先に行って来るお話で、「わたし、馬と話ができるよ」というセリフで幕閉けます。

ただ実際に疎開を体験した僕は、あまりリアルに描きたくなくて、当時の仏映画のヌーヴェルバーグのように、リアルズムとはちょっと離れた描き方をしたんです。

## それが今回の原画に?

そうです。少年と少女と馬がモチーフの絵が3枚と、TV取材に応じて絵に極薄の和紙を掛けて重ね描きした、もう1枚の少女の絵との、合計4枚を原画としました。

モチーフが重層的に重なっていて、しかも描いた時期も異なる。この「時間のずれ」のようなものを印刷でやってみたらどうなるかなと思いついたのが出発点になりました。

## 重層的な要素を印刷で?

この5枚の作品は、少年や少女が馬の前脚や後脚になっていたり、2枚の絵が一頭の馬のようにつながっていたりというアイデアが潜んでいます。重ね書きした絵が独立したり、重なり合ったものもあります。僕が手で描いたものとアンティークのバラをコラージュしたところもあります。印刷なら、いろいろな時間や要素をひとつにできるのではないかと思ったんです。

## 閉じ込められた時とロマン

印刷物は、たくさんの時間が折り重なってできていきます。一枚の絵でも4版で刷れば4つの時間がかかわることになるからです。写真のようにその瞬間を一発で切り取るわけではないし、直接描くのととは違う面白さがあります。言



うなれば大河小説のような魅力かな。

しかも今回は絵画の複製が目的ではなく、印刷的な魅力に置き換えるという試みです。PDも一緒に作品づくりに取り組んでくれるので。これはいろいろな展開も生まれそうだ、期待がふくらみました。

#### 原画は木炭画ですね。

木炭やコンテは、最初から完成を考えていない自由さのある素材です。ペンは手にした途端にどう展開するかが決まってしまうのですが、木炭はちょっと指でこすれば消えてしまって修正が効くし、漠然と描いていく事ができます。その試行錯誤できる素材が、自分の考えの痕跡を残していけるし、印刷でいろいろなものを取り込んでいこうという今回の試みにはぴったりでした。

#### 具体的にはどのようなことが？

たとえば、背景に写真を使おうというのは凸版印刷の方々の提案でした。フォトグラファーの斎藤さんがつくってくれた映像をもとに、「この色にこんな風に変化をつけたい」「ここは光っているような感じで」と相談しながら詰めていきました。さらにPDの小林さんや尾河さんから、5枚それぞれにイメージに合う紙を提案されました。しかも、聞く通常なら基本の4色をフォローする立場にある特色を思い切り主役に使った版構成を考えているのです。これは面白いことになってきた、と

ワクワクしました。

ですからこの作品は、最後にどこに行くのかを決めずに、何人もが意見を出し合いながら上げていったものなのです。一緒に考えてくれた人たちそれぞれのロマンスが背景にあるのです。

#### まさにコラボレーションですね。

こういうやり方は僕の性格に合っているようです。演劇が好きなのもそのせいでしょ。あらかじめ様式やイメージを決めてかかるとは、演出家や役者の意見も含めながらいろいろ展開していく、その曖昧なまま進行する時間がとても好きなんです。

#### プロセスに魅せられて

そういう展開が生まれるのは、僕がある程度具象的なイメージを描くタイプだからなのでしょう。作品は共鳴してもらえた時に、そこに物理的な変容とは少々異なる、文学的な変容が生じるのだと思います。

ただ、それはちょっとわかりにくいかもしれませんが。映画で言えば本筋ではない、撮影の背景に潜む面白さのようなものだからです。黒澤明が助監督だった時、雪の中を走ってきた感じを出そうと、高峰秀子の睫毛と眉に蠟燭の蝋を溶かしてつけたとか、雪に足跡を残さないように、常にカメラのフレームの外を遠回りにしていたとか、そういうエピソードのように。

#### 目には見えない奥がある？

例えばバスター・キートンが女性へ愛を告白できずに1年も経ってしまった男を表現するのに、抱いている犬や周りの景色だけを変化させながら同じ窓辺に同じポーズで立たせて撮影しているのを見て、「カメラを知っている監督はすごい、面白い」と感動するような面白さです。

見る人によってはバカバカしいと思うかもしれませんが、きっと僕らはそういうところに感激する人種なのでしょう。シルクスクリーンの白なら1回刷れば済むかもしれないのに、オフセット印刷で3回重ね刷りをして微妙な調子にこだわるとか。それを自由に、しかも贅沢にやらせてもらえて、本当に面白かったし、楽しかったです。

#### 最後に来場者に一言お願いします。

正直なところ、今回の作品の面白さがすべての方にぱっと伝わるかどうかはわかりません。ある意味、特殊な事をやりたい人たちが集まって展開していた作品ですから。

ただ、今回の展覧会で「宇野亞喜良は印刷が好きなんだな」と知っていただけなら嬉しいです。僕は、僕の絵で何かやりたいと思わせるような、アクチュアルな存在でいたいので。



木炭で描かれたドロワーイングと写真を、オフセット印刷とスクリーン印刷、高演色のプロセスインキと特色、用紙特性と表現手法を掛け合わせるにより、より豊かで厚みのある表現世界を目指した。

#### 作品1

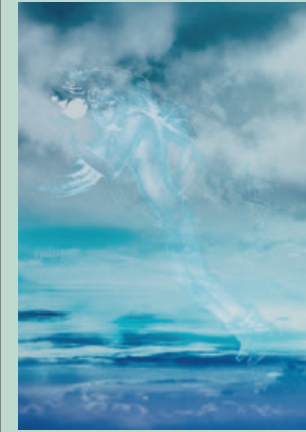
透き通る紙に表裏印刷を施し、透明感を際立たせる印刷に挑戦。背景の空と雲と馬を、細やかな調子を拾いながら裏面から刷り、表側には少女のラインと肌感を濃茶と白で補填。それにより背景とイラストレーションを一体化させ、少女の存在感を浮かび上がらせた。



#### 作品2

ダイナミックに変化する色調と湧き溢れるような光、雲の繊細な表現を、パールのようにきらめく用紙で増幅。浮世絵のように折り重なる色彩の変化を、色ごと

に特色2版を掛け合わせて再現している。スクリーン印刷でラメを配し、用紙の輝きとさりげなく相乗させた。



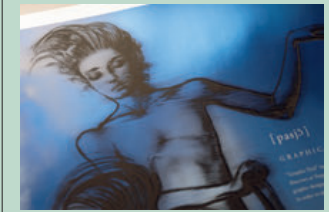
#### 作品3

鮮やかで繊細な背景の色調を生かす、美しいグラデーションの表現に挑戦。再現性に秀でたコート紙に高演色のCMYKで豊かな調子を現出させ、さらにグリーンを重ねて鮮やかさと深みと透明感を共存させた。さらにスクリーン印刷で3色のラメをグラデーション調に掛け合わせ重層する2人の少女像を表現した。



#### 作品4

蒸着紙に裏方的な役割を担わせつつ、ホワイト3版と濃淡2色の青の調子版を刷り重ねることで、メタリックな光沢とマットな質感が絡み合う複雑な質感を表現。スクリーン印刷で実現させたマットでボリューム感のあるラインと、作為的なざらし効果による動的な表現もポイント。



#### 作品5

雲海に浮遊する少女の幻想的な世界を、マットなパステル調で表現した。背景は、オフセット印刷で白インキを混入したプロセス4色により、煙のような色調に演出。少女のラインは版上でインキを混色させるグラデーション技法で仕上げ、花の一部にはステレオ箔で立体的かつ象徴的な加飾を施し、柔らかなトーンのなかに華やかなインパクトを添えた。





1

1 作品1  
印刷方式[色数]——表 H-UVオフセット印刷[2]  
裏 H-UVオフセット印刷[5]  
スクリーン——AM175線  
用紙——NT/バイル パールホワイト 135Kg

2 作品2  
印刷方式[色数]——オフセット印刷[7]+シルクスクリーン印刷[2]  
スクリーン——AM175線.80メッシュ  
用紙——New特レーブル輝き ゴールド 110Kg



2

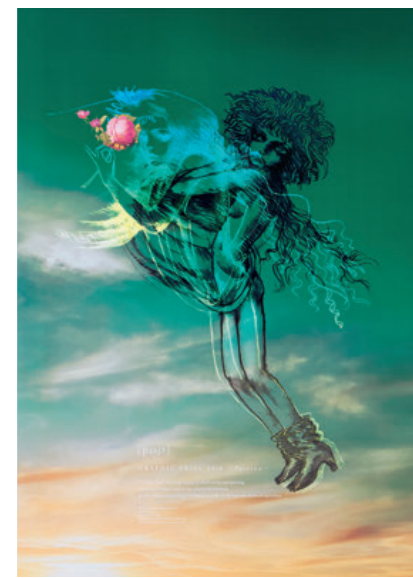


4

5 作品5  
印刷方式[色数]——H-UVオフセット印刷 [4]+シルクスクリーン印刷 [2]  
+箔押し  
スクリーン——AM 175線、280メッシュ  
用紙——ミセスB-F スーパーホワイト 135Kg

3 作品3  
印刷方式[色数]——H-UVオフセット印刷[7]+シルクスクリーン印刷[3]  
スクリーン——AM175線.80メッシュ  
用紙——ハイマッキンレー アート 135Kg

4 作品4  
印刷方式[色数]——H-UVオフセット印刷[8]+シルクスクリーン印刷[1]  
スクリーン——AM 175線、150メッシュ  
用紙——オフメタルN銀 165Kg



3



5